

関西広域連合協議会大学との連携分科会の議事概要について

- 1 日 時 平成26年8月18日(月) 14:00~16:00
- 2 場 所 関西広域連合本部事務局大会議室
- 3 出席者 (委員)
秋山会長、多田委員、山下委員、小林委員、中島委員、鱧谷委員代理
(本部事務局)
中塚局長、古川次長、村上次長、立石計画課長、笠井国出先機関対策P
T課長、落合関西イノベーション推進室副室長

4 議 事

関西広域連合の取組等について

(1) 事務局説明

「広域的な産学官連携イノベーションに関する調査研究について」

【関西イノベーション推進室副室長】

(2) 意見交換

委員からの主な意見

- 大学連携ではテーマ毎に市町村、複数市町村、府縣市の一部、広域連合とスケール設定が必要である。
- 関西広域でオープンデータを活用しての連携もあり得る。
- 学生が入ってくるだけでも地域の活性化につながる。研究機関である大学と地域の双方にメリットがあれば今後も連携をとっていきたい。
- 観光学は学問としてまだ確立されていない。フィールドに入ってきていただくことが日本の観光学の確立につながればよいと思う。
- 近年は大学も地域貢献を目指すようになってきている。
- 地域で活動している大学は互いの活動内容等を知らないため、情報交換の場があれば非常に有益である。
- 高度人材を関西の中小企業に持ってくる橋渡し役が必要。関西の大学にいる海外からの留学生も東京志向が強い。大学には、卒業生を関西の企業にとどめて関西のグローバル化の推進役になってもらうという視点も必要。
- いろいろな技術を持った都会の人が、地域の人たちと協力して何かをやり、できればその地域に定住もしてもらう。そういうことの下地を大学でつくることができればよい。
- 広域連合が大学と連携してつくった仕組みは、府県や市町村がそれをうまく活用して初めて有効な問題解決の手段と成り得る。
- 地域との関わりについて、各大学で得意とするところを、広域連合でプラットフォーム的にコーディネートしてはどうか。